

# The English Department Newsletter

関東学院大学 国際文化学部 英語文化学科ゼミナール連合通信 第11号 ● 2023年2月20日発行

## CONTENTS

- ① 学科長挨拶  
金沢文庫から金沢八景へ  
卒業論文執筆テーマ
- ② TOKYO GLOBAL GATEWAY
- ③ ようこそ四條先生
- ④ 第1回  
高校生☆英語俳句コンテスト
- ⑤ 第2回英語俳句コンテスト:  
大学生部門  
留学だより(1)
- ⑥ English Camp 2022  
Interview
- ⑦ 教育実習を終えて  
オープンキャンパスにゼミ  
ナール連合で参加!  
卒論発表会
- ⑧ 留学だより(2)  
Vista

## 「ゼミナール通信」冒頭挨拶

英語文化学科長 入江 識元

この『英語文化学科ゼミナール通信』もコロナ禍での3回目の刊行になりました。そして、これが金沢文庫キャンパスでの最後の刊行ということになります。本年度は、このキャンパスでの授業も最後ということで、各学年のゼミナールでも文庫を名残惜しんでいましたが、4年生のゼミメンバーは、むしろ金沢八景キャンパスを知らずに卒業することを名残惜しんでいるようです。本年度は、引越しに向けて様々な業務が加速し、夏休みには図書、書類の廃棄作業に追われ(掲載の写真は会議室の廃棄作業で先生方と撮ったスナップです)、本稿をしたためている12月には先生方の個人研究室なども移転に向けて本格的に引越し作業が開始されています。また、大学祭の時期には「さよなら金沢文庫キャンパス」と題したホームカミングデーも開催され、ゼミ卒業生の皆さんや退職された教職員の方々が多数訪れ、キャンパス内を巡りつつ互いに旧交を温めキャンパスの思い出を語り合っていました。このまま金沢八景キャンパスへ移る学生の皆さんも金沢文庫キャンパスへの想いは尽きないかと思います。海に近い金沢八景とは異なり、金沢文庫キャンパスは高台にあり、駅から遠いためほとんどの人がスクールバスで通う毎日でした。そして住宅街を抜けて到着すれば緑が生い茂る森に野球場、ラグビーグラウンド、陸上競技場を従えた広大なキャンパス。皆さんは、コロナ禍をこのキャンパスで乗り切ってきたのです。この国際文化学部で培った「文庫イズム」を携えて、金沢八景でも新たな学部の仲間と新たな活動に想いを膨らませようではありませんか。

思えば、私自身、新型コロナウイルス感染拡大の影響を最初に受けた年度にこの通信の編集を任せられましたが、すべてが異例尽くめでてくて舞いの毎日だった記憶があります。ゼミナール有志の一人ひとりも精神的、経済的にたいへんななか、互いに協力しあい冊子は上梓されました。コロナ禍においてもゼミナールはいち早く対面での開講措置がなされましたが、これも、ゼミナールが大学カリキュラムの根幹であり、学びの基盤であるということの証です。本年度もゼミナール連合会の活動は皆さんの協力もあり活発に行われ、オープンキャンパスでの行事にもご協力いただきました。ゼミ長を中心とする学生有志の皆さんやゼミナール連合会の運営に関わる先生方には、たいへん感謝しております。金沢八景キャンパスに移転してからも、ゼミ連を中心にして学部、学科間のコミュニケーションがスムーズに進むことを心より祈念しております。



先生方による夏期引越作業でのスナップ  
(一番手前が筆者)

## 卒業論文執筆テーマ

4年生の後期に卒業論文を完成します。  
研究の一つを紹介します!

英文法と英語教育についての卒業論文を執筆しております。「学校で学んできた英語を日本語に訳しても、意味が通じないことやそもそも訳すことができないことがしばしばある。その理由としてその人自身のコミュニケーション能力の問題や発音などがあげられるが、最も重要で念頭に入れておかなければならないのが、言語の構造に文化が反映されているということにある。」このような内容について様々な文献を読んだり、まとめたりし、卒業論文を完成します。

(英語文化学科4年 森田 真歩)

# TOKYO GLOBAL GATEWAY

2022年9月5日～8日、  
国際交流演習 I でTGGに行きました。

2022年9月5日～8日、国際交流演習の学外研修プログラムとして、私たちは東京都江東区にあるTOKYO GLOBAL GATEWAY(以下、TGGと略)という施設で擬似語学留学を経験してきました。みなさんはこのTGGをご存知ですか? TGGとは新しいタイプの体験型英語学習施設で、日常から離れ、海外をイメージして作られた街並みで、いつもと違う環境の下、グローバルな世界を存分に体験できる場所です。

課題解決型の学習活動を通じて、英語を用いた国際交流を体験すると共に、異文化交流やその方法論をこの身に体感しながら学びました。4日間に及ぶプログラムでは、外国人の専門スタッフと共に留学やキャリアに関する疑似体験をはじめ、英語による発信(スピーチ、ディスカッション、プレゼンテーションなど)のトレーニング、ワークショップ型の異文化交流、プロジェクトベースラーニング、ニュース・動画制作まで幅広い内容を扱いました。

この研修を経て、私は自分が伝えたい英文が頭の中にはっきりと浮かぶようになり、以前に比べて躊躇なく英語を話せるようになりました。集中的かつ実践的なトレーニングを通じて、英語を吸収し、発信するスキルを磨くため、実際の国際交流や異文化交流の場で活躍するための素地ができたと感じております。

TGG研修プログラムは、英語文化学科による一部費用負担もあり、大学側も手厚いサポートをしてくれます。グローバル社会で活躍するための第一歩として、また海外研修・国内留学への挑戦として、みなさんもぜひKGUでTGGを経験してみたいかがでしょうか。

In August 2021, as part of the off-campus training program of the International Exchange Seminar, we experienced a simulated language study abroad program at the TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) facility in Koto-ku, Tokyo. TGG is a new type of experiential English learning facility where students can experience the global world in a different environment, away from their daily lives, in a cityscape designed to look like a foreign country.

The four-day program included simulated study abroad and career experiences with professional foreign staff, training in English communication (speeches, discussions, presentations, etc.), and cross-cultural workshops. The program covered a wide range of topics from simulated study abroad and career experience with foreign professional staff, English communication training (speeches, discussions, presentations, etc.), workshop-type cross-cultural exchange, project-based learning, and news and video production.

Through this training, I was able to clearly picture in my mind the English sentences I wanted to convey, and I am now able to speak English without hesitation compared to before. Through intensive and practical training, I feel that I have gained the groundwork to play an active role in actual international and cross-cultural exchanges in order to hone my skills of absorbing and transmitting English.

The TGG training program is partially paid for by the Department of English Language and Culture, and the university provides generous support. We encourage you to experience TGG at KGU as a first step toward becoming active in a global society, or as a challenge to study abroad or study in Japan.



日本の文化を英語で紹介する準備

(英語文化学科3年 宮坂 悠一郎)

# ようこそ四條先生

今年度新任の四條先生にインタビューしました。

## 先生が研究されていることに関して教えてください。

ハワイ州にある先住ハワイ人専用の住宅「ハワイアン・ホームステッド」について、フィールドワークを行っています。この住宅に申し込むには、先住ハワイ人の血を50%以上有している必要があります。しかし、現在のハワイでは先住ハワイ人の血が100%の人は、わずか数千人程度しかいません。今後、「50%以上の血を受け継いでいること」というハワイ人住宅の入居ルールがどう変わっていくのか、変化を見続けていきたいと考えています。

そして、ハワイアン・ホームステッドの他にも、フラについての研究も行っています。ハワイ文化復興にとって中心的な役割を果たしており、最近では男性フラ(カネフラ)も盛んです。フラは「女性の踊り」として世界中に知られています。しかし、フラはそもそもは男性、特に戦士が中心となって踊っていました。今では男性のフラチームも増え、フラに男性的な要素(例えば筋トレで鍛えた体や戦いをテーマにした踊り)を再導入する取り組みが進んでいます。



## なぜその研究テーマを選んだのですか？

大学院の修士課程では、沖縄・奄美における伝統文化や先住性について研究をしていました。しかし、博士課程に進んだ際に、先住性についてもっと広い視野で見てみたいくなりました。

そこで、先住文化の復興運動が盛んなことで知られるハワイで、伝統文化や伝統的な価値観を再生する取り組みについて、住み込みで長期フィールドワークを行うことにしました。

## 先生の趣味はなんですか？

色々なことに挑戦することが好きです。ただ、ウェイト・トレーニングは高校生の時からずっと続けており、ベンチプレスは現在は120 kgを目標にトレーニングをしています。それと、食べることも好きなので、ハワイでお気に入りの店を回ることも楽しみの一つです。

## ハワイでおすすめスポットはどこですか？

個人的には、ハワイ島のキラウエア国立公園の景色がとても好きです。日本では感じる事のできないほど壮大なスケールです。あとは、地元の方達(ローカル)が通うスーパーに行ってみることをおすすめします。実際のハワイの暮らしを見ることができます。

## 学生に一番おすすめしたいことはなんですか？

国内国外を問わず、一人旅を経験して欲しいと思います。一人だと全て自分で判断しなければならないので、判断力がものすごく鍛えられます。そして、たとえ失敗してもそれも貴重な経験です。もっと旅行がしやすくなったら、皆さんも一人旅を計画してみてください。それから、今のうちから筋トレもおススメします。

(英語文化学科3年 武山 未来)



# 第1回 高校生☆英語俳句コンテスト

8月13日～10月14日の応募期間で  
高校生☆英語俳句コンテストが行われました。

英語文化学科主催の「第1回 高校生☆英語俳句コンテスト」が8月13日～10月14日の応募期間で行われ、12月3日にその表彰式がオンライン上で開催されました。今回は秋から冬にかけての季節を感じられる句がテーマです。コンテストには全国58の高等学校から応募があり、その数は445句となりました。その中で特に素晴らしい俳句を作った6名が今回受賞されました。

最優秀賞を受賞された方の作品をご紹介します。

## 【最優秀賞】

山下 実穂さん 千葉県 渋谷教育学園幕張高等学校 2年生

One soft breeze  
Rippling the golden tides  
Of wheat field now ripe

○審査委員長のBotsford先生による講評:「soft breeze」「rippling」「golden tides」これらの言葉に続く「wheat field now ripe」という表現は予想外の展開で、動き・色・時間の流れといったイメージが穏やかな秋を想起させる句でした。

また「ripping」と「ripe」の頭韻がこの句に音の流れを加えています。

○受賞者の山下さんによるコメント:この度は最優秀賞を頂くことができ、大変光栄です。今回コンテストに参加するまで英語俳句の存在は知りませんでしたが、リサーチや表現の工夫を重ねる中で英語俳句の奥深い世界に触れることが出来ました。

○優秀賞、佳作を受賞された方の紹介

## 【優秀賞】

足立 織香さん 神奈川県 横浜緑園高等学校 3年生

迎田 柚希さん 熊本県 八代白百合学園高等学校 2年生

## 【佳作】

高木 瑠希さん 神奈川県 関東学院高等学校 2年生

高橋 ひなたさん 岩手県 盛岡大学附属高等学校 1年生

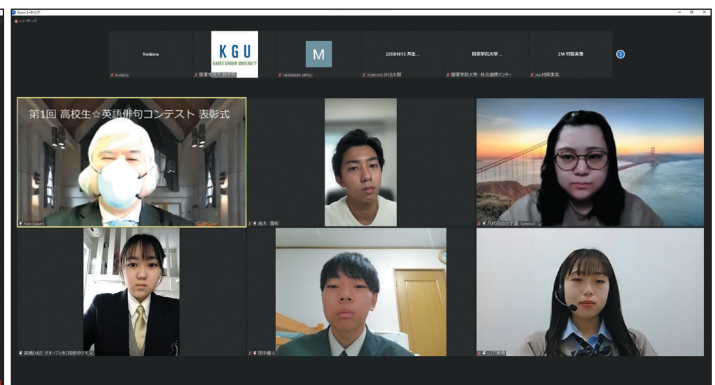
田中 優人さん 埼玉県 開智高等学校 2年生

以上6名の方が「第1回 高校生☆英語俳句コンテスト」で見事入賞されました。

英語俳句は日本語の俳句よりもルールが少ないため初めて英語俳句に触れる人でも始めやすく、今回の受賞者の中には今回初めて英語俳句を知ったという方もいらっしゃいました。英語俳句で印象に残った風景や季節を感じた瞬間などを表現してみるのも面白いものです。

Let's try Haiku in English!

(英語文化学科3年 井出 大智)





# English Camp 2022: Interview

2022年8月2日～4日の3日間、英語文化学科が運営するEnglish Camp(科目名は国際交流演習Ⅳ)が静岡県で開催されました。

前年は新型コロナウイルスの影響でEnglish Campが10月下旬に延期され、2020年は全くできなくなってしまったため、「夏のイングリッシュキャンプ」は3年ぶりに夏休み中に開催されました。

2022年度English Campに参加した26名中の2名に、下記のインタビューを行いました。

## Q. English Campに参加する前に、皆は春学期の準備講座(国際交流演習Ⅲ)を取らなければならないようです。準備講座の内容は何でしたか?役に立ちましたか?

**鹿毛ひまりさん**：準備講座の内容は、English Campへ向けての準備が中心です。初めの方はスピーチの発音などを重点的に練習しました。この発音の練習が、English Campでとても役に立ちました。

**池田和希さん**：準備講座では、長文を英語で覚えたりとEnglish Campを意識した授業でした。この授業があったおかげで、English Campも堂々と英語を話すことができました。

## Q. そうですか。そして8月のEnglish Campは2泊3日ですが、集中的に英語を学ぶそうです。どうでしたか?正直に言って、3日間ずっと英語ばかり話しましたか。

**池田さん**：ずっと英語で話すことは正直できませんでしたが、周りの先輩や先生たちのサポートであやふやながらも英語を話そうと努力しました。

**鹿毛さん**：正直、英語だけで話すことはきつく、できませんでした。しかし、不安でありながら先生方と会話すると、理解しようとしてくれて、とても話しやすかったです。

## Q. 楽しいこともあると聞きました。English Campでの一番いい思い出は何ですか。

**鹿毛さん**：一番の思い出は、グループでの劇の発表です。私のグループは練習通りの成功はできませんでしたが、練習で友達と仲が深まったり、他のグループを見て会話の表現などを学べたことが楽しかったです。

**池田さん**：劇が一番印象に残っています。準備講座の時から練習してきました。本番もすごく楽しくできましたが、練習の時から楽しくて良い思い出です。

## Q. 泊まる場所について教えてください。居心地のいいところでしたか。

**池田さん**：私的にベットは固かったです。背中が痛くなりました。しかし、ご飯はとてもおいしかったです。緑に囲まれて自然を感じられました。

**鹿毛さん**：一人部屋でベットもありとても心地よかったです。施設も綺麗で、ご飯も美味しかったです。

## 5. Finally, one question in English. What do you want to tell students who want to join next year's English Camp?

**鹿毛さん**：English Camp was so hard. But you will be able to make good friends and good memories!!!

**池田さん**：English Camp helps us study English! And you will like English more than before through English Camp. You should join the English Camp!!!

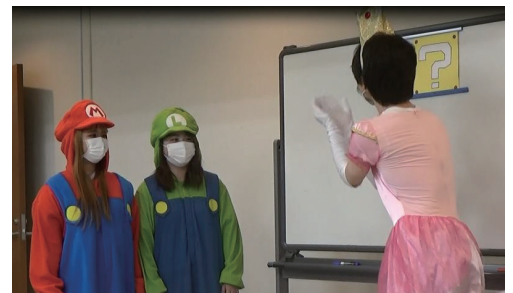
(英語文化学科4年 山口 翔子)



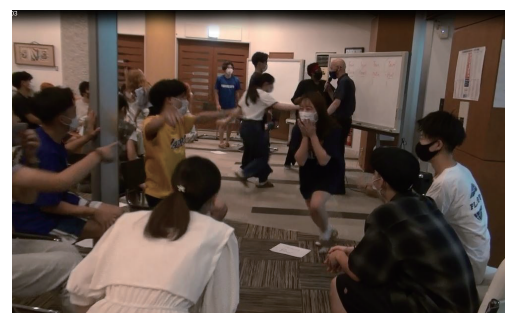
鹿毛さん、池田さんと英語劇の男子チームメート



池田さん(真ん中)と鹿毛さん(ゴジラ)の英語劇



他のグループの英語劇



全員が参加する英語ゲーム



2022 English Campの全員

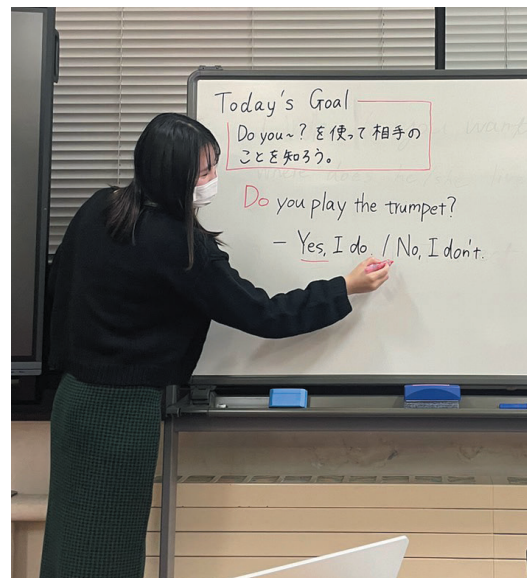
## 教育実習を終えて

今年度6月に横浜市の母校の中学校で教育実習を行いました。授業については、実習校の指導教員の先生の授業を2日間、見学させていただき、実習開始から3日目に初めての授業実習を行ったのですが、実習の最初の週は授業を行うことに対する大きな不安を抱えていました。初めての授業実習では、指導教員の先生に「誰に向けて授業をしているのか」「生徒を見ること」を指摘していただき、それが私の中での大きな課題となりました。2週目以降は、この2点を意識して、どのようにすれば改善できるのか考え、質問や生徒が発言できる場面を増やしたり、机間巡視をしたりして、授業を工夫しました。その結果、実習を終えるころにはゆとりをもって授業を行うことができ様々な先生からほめていただき、自分に自信をつけることができました。

生徒との関わりについては、はじめは生徒との距離感が分からずあまり話しかけられないという状況が続いていました。しかし、教育実習は3週間という短い時間なのでこの短期間でどのように生徒との距離を縮めることができるのか考えました。そこで、授業前に早めに教室に行って生徒という時間を増やしたり、朝の学活でなぞなぞを出したり話題作りをしたりしました。そうすることで、生徒と距離を縮めることができ授業でも休み時間でも生徒と関わる時間が増えました。こうした経験を通じて、生徒と距離を縮めるには自分から行動し心を開くことがとても重要なのだと実感することが出来ました。

教育実習を通して大変なことも多くありましたが、それ以上に生徒と関わり教育実習生にしかできないことができ、また、自分自身努力し成長することが出来たことがとても楽しく、良い経験となりました。この経験を生かして今後も教員として頑張っていきたいと思います。

(英語文化学科4年 杉山 有輝)



ゼミ内で行った模擬授業の様子です。何度か練習を行いゼミのメンバーでお互いの授業を見て意見を出し合いました。

## オープンキャンパスにゼミナール連合で参加! : 英語文化学科個別相談会

夏休みに関東学院大学のオープンキャンパスが開催されました。英語文化学科のゼミ連は、オープンキャンパスに参加した高校生に対して、「英語文化学科個別相談会」を行いました。全員が初めて行う企画だったので1日目は、なかなか人を集めることができませんでした。しかし、2日目は、初日の反省を生かして、ブースの周りにキーワードとなる単語を貼ったり、積極的に呼びかけを行ったりしました。するとそのかいあって初日よりも人を集めることができました。

相談会では「ゼミ・学生生活・部活動・入試」などに分かれて高校生たちの質問に答えました。3,4年生が親身になって相談に乗ったので、相談を終えた参加者たちは納得の表情で帰って行く様子が目に映りました。私が2日間を通して感じたことは、高校生たちは学校とバイト・部活動などがしっかり両立できるかを不安に抱いているということです。初めての企画ということもあってすべてうまくはいかなかったかもしれませんが、高校生たちの不安解消へ少しでも力になったことにやりがいを感じることができました。もし、来年もゼミ連として同じ企画に参加できたときには、想定される質問を考えておき、それに対して完璧に近い形で回答できるように準備をしっかりに行いたいと思いました。

私はこの活動に参加してよかったと心から感じるすることができました。

(英語文化学科3年 阿部 晃聖)

## 卒業論文発表会

2023年2月1日にTOEICと卒業論文発表会が対面で開催されました。

7名の発表者から様々な分野の専門的な発表がありました。最優秀発表賞を受賞された方は、「ディズニー英語におけるジェンダー表現の変化」を発表された石岡莉乃さんでした。コロナ禍で久しぶりの対面開催となり、ゼミナール連合のスタッフが、運営に携わりました。



発表終了後の写真

## 留学だより(2)

アメリカ合衆国・オレゴン州・リンフィールド大学に  
留学した半田さんにインタビューしました。

### Q. リンフィールド大学の留学について教えてください。

三年次の8月から12月の4か月間(1セメスター)留学を利用し、リンフィールド大学へ通いました。在学中は留学生向けのクラスに在籍し、ListeningとSpeaking、Writing、American Cultureを学ぶ3つのクラスが行われています。加えて、ヨガやバスケットボール、ダンスなど様々なアクティビティもあります。部活動にも参加することができ、現地のダンス部に所属し、週2回2時間の練習をこなしました。異文化の方とも好きなことで輪を広げることが出来ます！

### Q. 留学プログラムについて教えてください。

留学生対象のプログラムでは日本からの留学生のほかにも様々な国からも留学生がやってくるため、異文化の交流は盛んにおこなわれています。留学生が対象となる授業と現地の学生と混ざって行う授業もあり、両方の経験ができることはとても貴重な経験になると感じます。留学先の文化だけでなく、そこに集う学生による異文化交流はリンフィールド大学の魅力の一つだと思います。

### Q. 留学中のイベントについて教えてください。

留学中にはThanksgiving DayやHalloweenなどのイベントもあり、Halloweenでは生徒がお手製のお化け屋敷を作り、楽しみました。コロナの流行に伴い、イベントが縮小していましたが、3年ぶりに開かれました。これから様々なイベントが行えるようになればさらに留学を楽しめること間違いのないと思います！

### Q.最後に、これから留学を迷っている方々へメッセージをください。

最初は慣れない環境に悩んだり、文化の違いに戸惑ったりすることも多くあるかと思いますが、とにかくアクティブに、互いの文化を尊重して、何事も楽しみながら、挑戦することを忘れなければ最後は絶対にいい思い出であふれていると思います。頑張ってください！

(英語文化学科3年 大井 航太朗)



部活動の様子

### 英語文化学科ゼミナール連合会

## Vista No.11

▼ゼミナール通信第11号をお届けします。今年度は、様々なイベントが対面に戻り、オープンキャンパスや、卒業論文発表会などのイベントでゼミナール連合として活動することができました。前回同様、今回も携わってくれた学生の声をお届けします。

▼学生時代の過ごし方は千差万別、各々の最高の楽しみ方をしてください！(大井)▼皆さんがコロナ禍だからこそその生活スタイルを見つけられますように。(KS)▼あっという間の4年間でした！物足りないくらいです、、、だからこそ皆さんも悔いのないよう大学生活を楽しんでください！(まほ)▼「Live as if you were to die tomorrow. Learn as if you were to live forever.」(ミヤサカ)▼コロナに負けにくいくらい大学ライフを全力で送りましょう。(DI)▼学生生活楽しんだもの勝ちなのでエンジョイしてください！(あべちゃん)▼大学生活、遊びと勉強の両方で悔いの無いように！(としひろ)▼大学生になったら自分のやりたいことが自由に沢山できます！楽しんでください！(りよ)▼色々なことに挑戦して大学生活を満喫してください！(ヤマグチ)▼大学生活、色んなことをして楽しんでください！(みらい)▼来年度もゼミナール連合盛り上げていきましょう(一教員)

The English Department Newsletter Vol.11 (英語文化学科ゼミナール通信第11号) 2023年2月20日発行

編集：関東学院大学 国際文化学部 英語文化学科

編集協力：関東学院大学 国際文化学部 英語文化学科ゼミナール連合会

〒236-8502 横浜市金沢区釜利谷 3-22-1 TEL. 045(786)7179 URL : <http://www.univ.kanto-gakuin.ac.jp>

印刷所：株式会社なまためプリント 〒231-0006 横浜市中区南仲通 4-43 馬車道大津ビル TEL. 045(641)8080